土を安全に消毒！
エタノールでいちごの萎黄病を防ぐ

概　要 Abstract

いちごの高設栽培で萎黄病が発生した場合に、より安全に培土を充填したまま消毒する手法を開発しました。

成　果 Results

湛水・加温が可能な施設で、エタノール濃度１～２％に調整した処理液を注入し、ストレッチフィルムで被覆した後、培土内の平均温度20℃以上で、湛水状態を３週間維持することで、萎黄病菌を還元消毒することができます。

表　高設栽培（湛水・加温処理可）いちごの萎黄病に対する培土消毒方法

処理前日まで	１）いちご残渣を除去し、培土表面をベッド上面と同じか低い位置まで均す。
処理当日	２）エタノール濃度1～2%で処理液を調整し、灌水用のポンプやチューブ等を利用し、処理液を注入して湛水状態にする。 ３）ベッド上面をストレッチフィルム等で被覆して、手などで表面を軽く押しフィルムと培土を密着させ空気を抜く。
処理中	４）3週間、培土内の平均温度20℃以上を維持する。 ５）漏水やベットの傾斜により湛水状態を維持できない場合は消毒効果が得られない。開始翌日～2日後には培土への吸収により水位が1～2割程度下がるので、同濃度の処理液を適宜追加する。
処理終了	６）フィルムを剥がして処理液を排水する。

＊疫病には本条件では実用性がありません

図　土壌還元消毒用資材

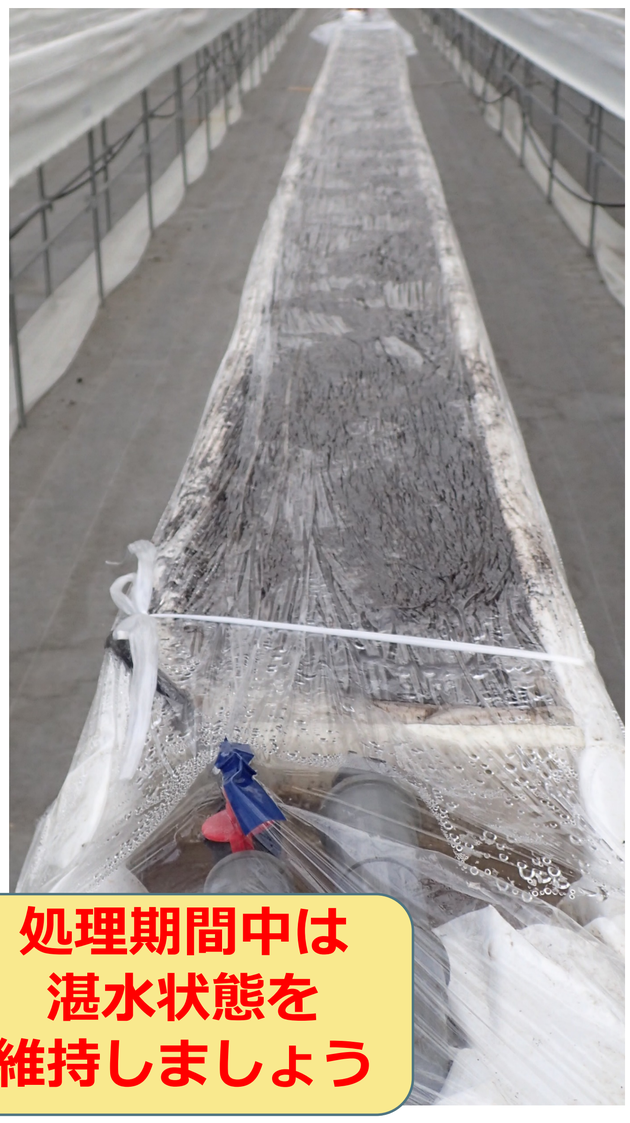

図　低濃度エタノールによる土壌還元消毒（A市現地施設）

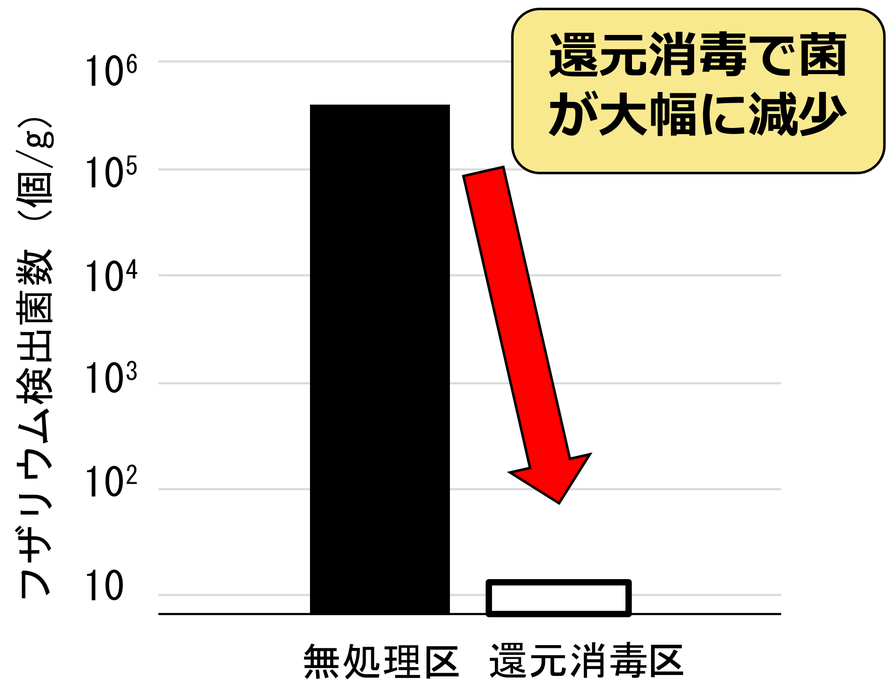

図　フザリウムに対する低濃度エタノールによる土壌還元消毒の効果（A市現地施設）

図　消毒後のいちごの萎黄病の発病（場内試験）
左：消毒後定植　右：未消毒

費用は、１ベッド（約45m）あたり1,422～2,688円＋暖房費

普　及 Dissemination

高設栽培施設（湛水・加温処理可）のイチゴ萎黄病の防除対策として活用する。

連絡先 Contact

花・野菜技術センター
研究部 生産環境グループ
０１２５－２８－２８００
hanayasai-agri@hro.or.jp